

捕獲等事業評価シート
様式
(令和7年度 ツキノワグマ)

(秋田県自然保護課)

評価シート（ツキノワグマ）

（１）北秋田市（間接交付事業）

STEP 1 予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。

■ 事業概要

事業実施地域	綴子、上杉、米内沢等（市北西部）
事業主体	北秋田市農林課
事業実施期間	令和 7 年 11 月 1 日～令和 7 年 12 月 31 日
捕獲手法	箱わな
事業メニュー	②捕獲等メニュー
事業費	854,000 円（※）

（※）捕獲コスト把握のため本事業地にかかる事業費のみ記載

■ 事業の評価

評価項目	当初予定	実績	評価
捕獲目標	合計 11 頭	箱わな：11 頭	捕獲目標の達成率は 100%であった。
捕獲作業量	箱わな：16 台日	箱わな：16 台日	計画通りの作業量を投じることができた。
効率的な捕獲	箱わな：0.69 頭/台日	箱わな：0.69 頭/台日	効率的な捕獲を行うことができた。
事業に要した人員数	546 人日	546 人日	予定通りの人員数を投じて作業を実施した。従事者 1 人当たりの捕獲数は 0.020 頭であった。
安全管理体制	市町村捕獲計画として提出	提出した計画に沿って作業を行った。人身事故やその他の事故は発生しなかった。	安全に予定通りの計画で事業は遂行された。
捕獲個体の処分方法	自家消費	自家消費	予定通りの計画で事業は遂行された。
環境への影響への配慮	・止め刺しには非鉛製銃弾を使用	・止め刺しには非鉛製銃弾を使用	予定通りの計画で事業は遂行された。
捕獲個体の属性	昨年度事業なし	・雄 5 頭 成獣 ・雌 3 頭 成獣 ・親子 3 頭	

■ 添付図面：捕獲位置図及び目撃数グラフ（別紙のとおり）

STEP 2 捕獲によって出没（密度）や被害が減少したかを検証する。

■ 事業実施地域

北秋田市北西部

■ 出没（密度）

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前もしくは事業開始時・前半	秋田県のツキノワグマ等情報マップシステムへの目撃投稿件数を比較する評価項目とした。 また、令和7年度9月からゾーニング管理に基づき市街地を取り囲むように管理強化ゾーンを設定したこと（うち本事業を活用した捕獲期間は11～12月）を踏まえ、管理強化ゾーンと内側市街地における目撃投稿件数について、大量出没年である令和5年度と令和7年度の9～12月の目撃件数を比較するとともに、県全体の同期間目撃件数も比較対象とする。 【令和5年9～12月件数】 ・管理強化ゾーン内 162 件 ・県全域 2,745 件 さらに、冬眠明けの効果継続性を評価するため、令和7年度と令和8年度の4～5月についても、管理強化ゾーン内および県全体の目撃件数を比較する。 【令和7年4～5月件数】 ・管理強化ゾーン内 36 件 ・県全域 475 件
事業実施後もしくは事業終盤・後半	【令和7年9～12月件数】 ・管理強化ゾーン内 239 件（R5 同期比 約 1.5 倍） ・県全域 9,874 件（R5 同期比 約 3.6 倍） 【令和8年4～5月件数】 ・管理強化ゾーン内 16 件（R7 同期比 約 0.4 倍） ・県全域 1,194 件（R7 同期比 約 2.5 倍）
評価	管理強化ゾーン内の目撃件数は事業実施前に比較して増加したものの、増加率（約 1.5 倍）は県全体（約 3.6 倍）と比較して小さい傾向が見られる。 また、月別では捕獲強化を実施した9月において目撃件数の減少が見られており（別紙参照）、取組の初期段階における抑制効果がうかがえる。 さらに、冬眠明けの翌年4～5月では、県全域で目撃件数は増加（約 2.5 倍）しているが、管理強化ゾーン内では減少（約 0.4 倍）した。

■ 被害

評価項目	モニタリング項目・方法
事業実施前もしくは開始時・前半	出没項目と同様に、管理強化ゾーン内の令和5年度と令和7年度の9～12月の人身被害件数を比較する。 【令和5年9～12月件数】 ・人身被害件数：5 件（10 月）
事業実施後もしくは事業終盤・後半	【令和7年9～12月件数】 ・人身被害件数：2 件（9 月、10 月）
評価	本交付金による効果とは特定できないが、管理強化ゾーンにおける事業実施には一定の抑制効果があったものと考えられる。

■ 添付図面：捕獲位置図及び目撃数グラフ（別紙のとおり）

STEP 3 評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲位置・時期・手法・従事者等の見直しを行う。

■ 捕獲等事業に関する評価及び改善点（STEP 1・2の検証を踏まえて記載する。）

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標設定】	評価：想定した捕獲が実施できた。
	改善点：特になし。
【実施期間】	評価：9月から管理強化ゾーンで捕獲活動を実施したが、強化開始時期の検討が必要。
	改善点：管理強化ゾーンでの本格的な取り組みが9月からとなったため、令和8年度以降は春季管理捕獲から捕獲圧を強化し、人身被害の未然防止に努める。
【実施位置】	評価：市北西部の管理強化ゾーンのみで実施し、出沒を減少することができたが、ゾーン設定や捕獲圧のかけ方が適切かどうか検証する必要がある。
	改善点：特になし。
【捕獲手法】	評価：箱罟、銃猟による共同捕獲。
	改善点：特になし。
【捕獲コスト】	評価：効率的に実施することができたが、一部実施隊員の負担が増加した。
	改善点：ICT機器の導入等により、捕獲活動の省力化を図る。
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：予定通りの計画で事業は遂行された。
	改善点：特になし。
【個体処分】	評価：予定通りの計画で事業は遂行された。
	改善点：特になし。
【環境配慮】	評価：予定通りの計画で事業は遂行された。
	改善点：特になし。
【安全管理】	評価：予定通りの計画で事業は遂行された。
	改善点：特になし。
3. その他の事項に関する評価及び改善点	
特になし	
4. 全体評価	
予定通りの計画で事業は遂行された。	

（2）男鹿市（間接交付事業）

STEP 1 予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。

■ 事業概要

事業実施地域	男鹿市全域
事業主体	男鹿市産業建設部農林水産課
事業実施期間	令和7年10月1日～令和8年3月10日
捕獲手法	箱わな
事業メニュー	捕獲等事業
事業費	660,000円（※）

（※）捕獲コスト把握のため本事業地にかかる事業費のみ記載

■ 事業の評価

評価項目	当初予定	実績	評価
捕獲目標	5 頭	箱わな：1 頭 銃猟：1 頭	銃猟による捕獲は、当初計画した箱罾とは方法が異なるが、被害防止と安全確保という同一目的で実施したため、捕獲実績に含めて評価する。
捕獲作業量	箱わな：最大 4 台	箱わな：最大 4 台	計画通りの作業量を投じることができた。
効率的な捕獲	出没情報を踏まえ、箱罾の設置場所を選定する。	複数回目撃されている箇所や、クマの通り道となっている箇所に箱罾を設置した。	出没情報を踏まえ、クマの出没頻度や移動経路に応じた場所に箱罾を設置しており、効率的な捕獲に向けた取組としておおむね適切であった。
事業に要した人員数	1 日約 5 人	1 日約 5 人	箱罾の運搬及び安全確保を考慮し、当初予定どおり 1 日約 5 人の体制で実施しており、適切な人員配置であった。
安全管理体制	作業時に安全確認を行い、事故防止に努める。	設置作業時等に事故は発生しなかった。	事故なく事業を実施できており、安全管理は適切であった。
捕獲個体の処分方法	捕獲個体は、埋設又は自家消費後、残渣を適正に処分する。	解体後、自家消費を行い、残渣は可燃ごみとして処分した。	捕獲個体は適切に処分されており、処分方法は妥当であった。
環境への影響への配慮	解体後の残渣は放置せず、悪臭や野生動物の誘引を防ぐため、可燃ごみとして適正に処分する。	解体後の残渣は可燃ごみとして処分し、放置しなかった。	残渣の放置を防ぎ、悪臭や野生動物の誘引防止に配慮した適切な処分であった。
捕獲個体の属性	昨年度事業なし	・雌成獣 2 頭	

■ 添付図面：捕獲位置図・目撃状況グラフ（別紙のとおり）

STEP 2 捕獲によって出没（密度）や被害が減少したかを検証する。

■ 事業実施地域

男鹿市全域

■ 出没（密度）

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前もしくは事業開始時・前半	・クマの目撃件数「多」

事業実施後もしくは事業終盤・後半	・クマの目撃件数「少」
評価	2頭の捕獲後、目撃件数は減少しており、被害防止に一定の効果があったと考えられるが、冬季による活動低下の影響も考えられるため、今後も継続して出没状況を注視する必要がある。

■ 被害

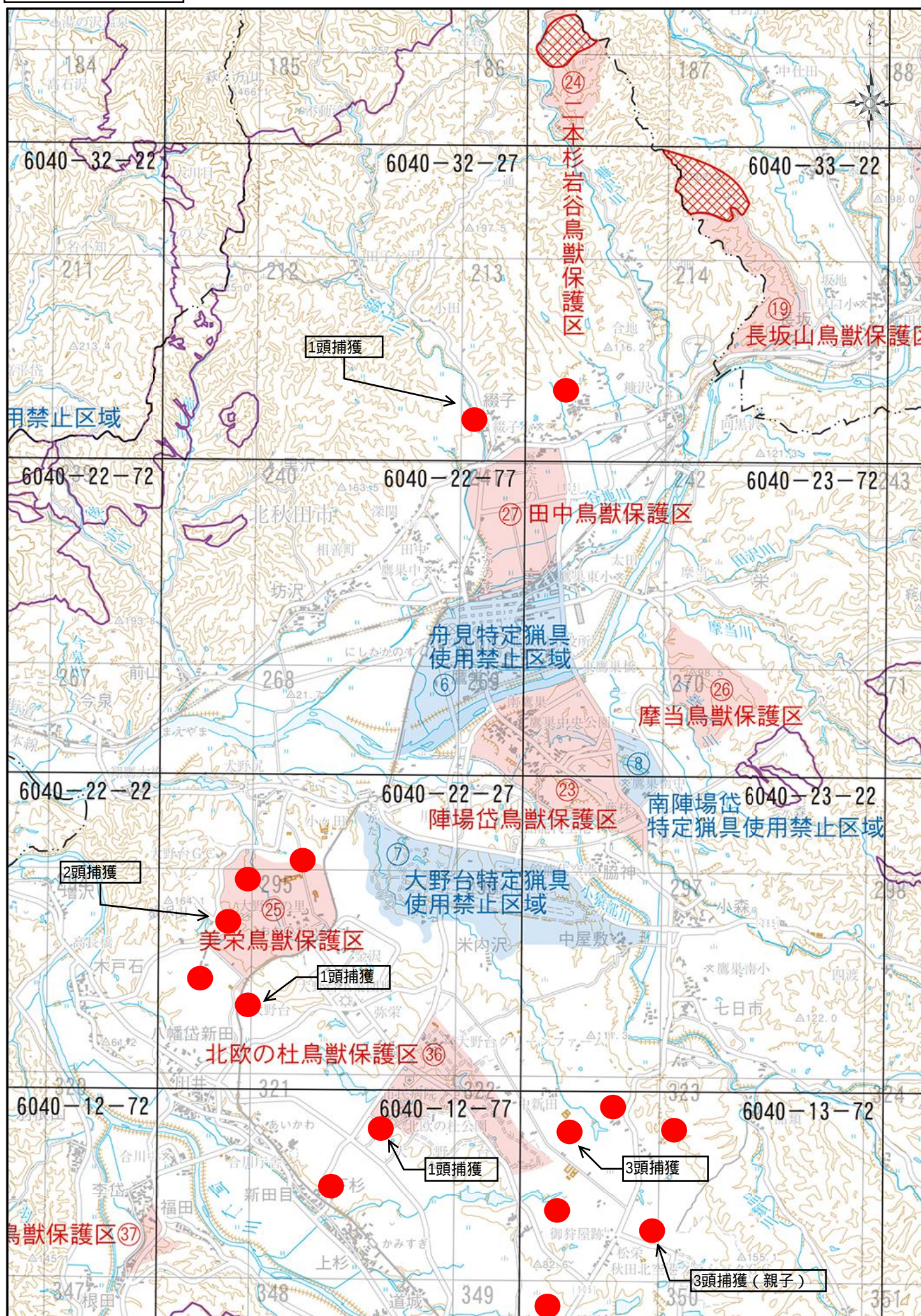
評価項目	モニタリング項目・方法
事業実施前もしくは開始時・前半	・事業実施前 クマによる人身被害は発生していない。また、農作物への被害の報告はない。
事業実施後もしくは事業終盤・後半	・事業実施後 クマによる人身被害は発生しなかった。また、農作物への被害の報告はなかった。
評価	事業実施前後を通じて、人身被害及び農作物被害の発生は確認されておらず、被害の未然防止が図られた。今後も目撃情報等を踏まえ、被害防止に向けた取組を継続する必要がある。

■ 添付図面：捕獲位置図・目撃状況グラフ（別紙のとおり）

■ 特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

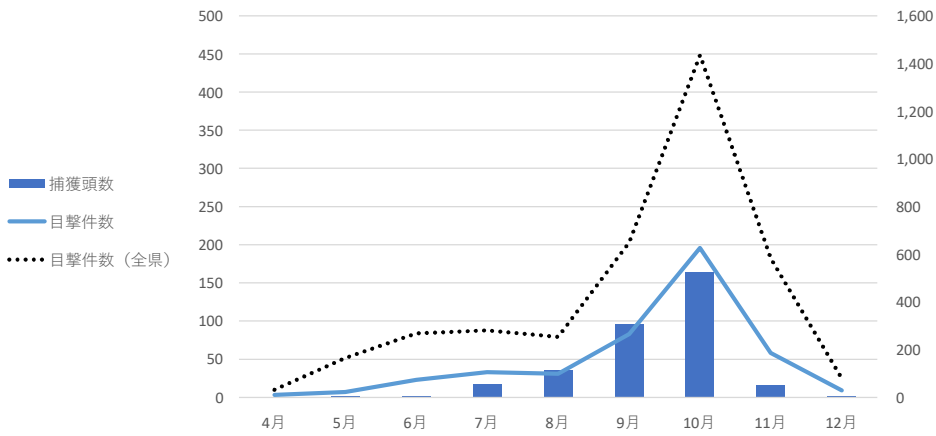
	モニタリング項目・方法
特定鳥獣保護・管理計画の目標	地域個体群の安定的な維持：推定個体数 2,900 頭程度、分布メッシュ 1,215 以下 生活環境被害の軽減：人の生活圏における人身被害ゼロ、年平均出没件数の減 農林水産業被害の軽減：農作物被害額・被害画面積 10%減
寄与状況の評価	令和7年度に両市が実施した捕獲事業は、クマの人の生活圏への大量出没に対応するため、人の生活圏へ出没した、あるいは出没する恐れのある個体の捕獲を実施しており、生活環境被害の軽減に対して寄与した。

北秋田市添付図面



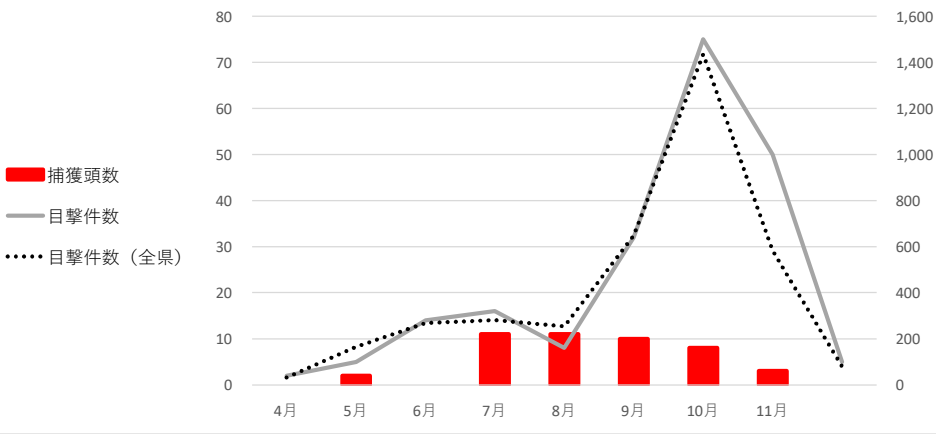
令和5年度

クマ目撃・檻設置・捕獲推移（市全域）



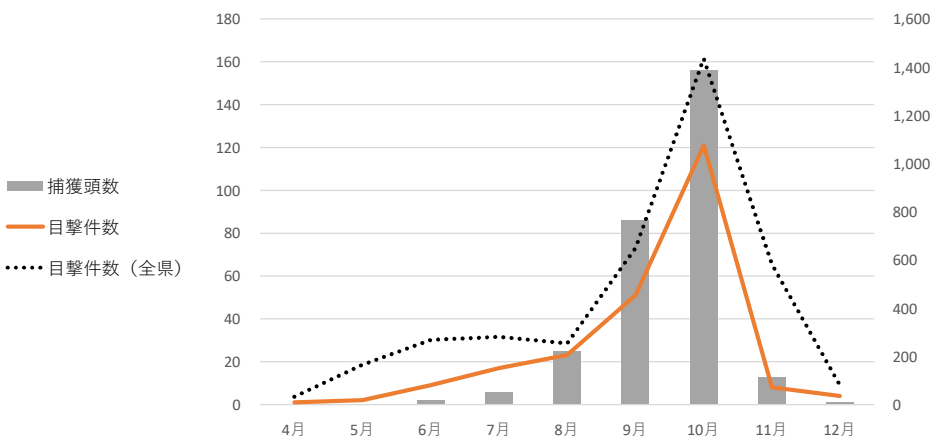
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
目撃件数（全県）	32	165	268	281	254	649	1,435	582	79	3,745
目撃件数	3	7	23	33	31	83	196	58	9	443
捕獲頭数	0	2	2	17	36	96	164	16	1	334

クマ目撃・檻設置・捕獲推移（管理強化区域）



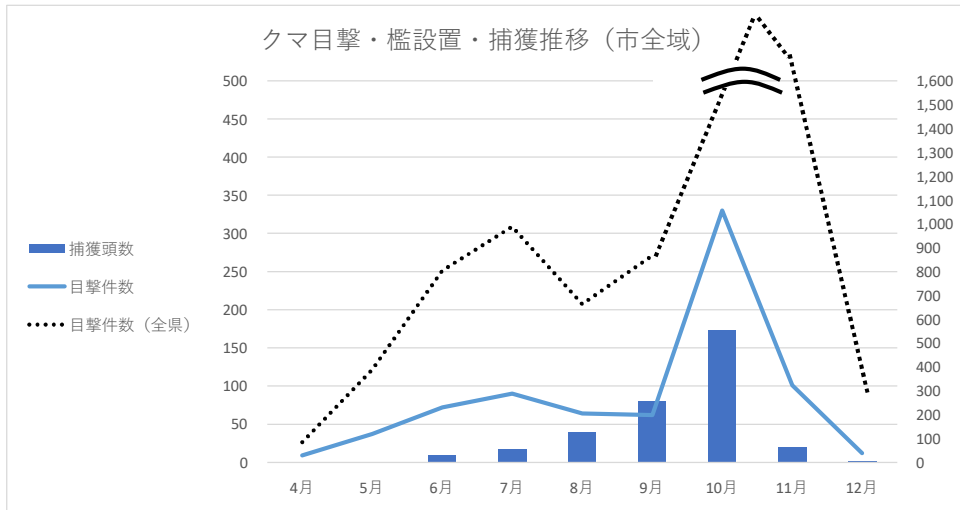
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
目撃件数	2	5	14	16	8	32	75	50	5	202
捕獲頭数	0	2	0	11	11	10	8	3	0	45

クマ目撃・檻設置・捕獲推移（管理強化区域以外）

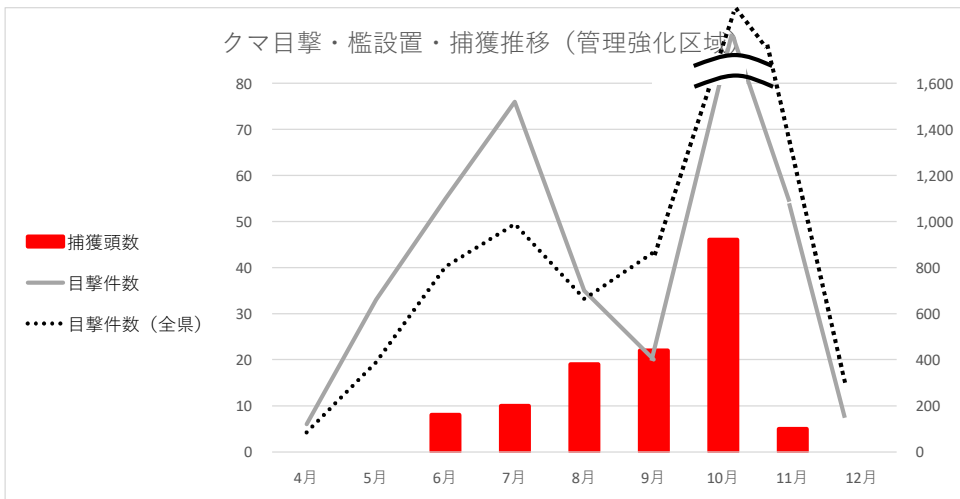


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
目撃件数	1	2	9	17	23	51	121	8	4	232
捕獲頭数	0	0	2	6	25	86	156	13	1	288

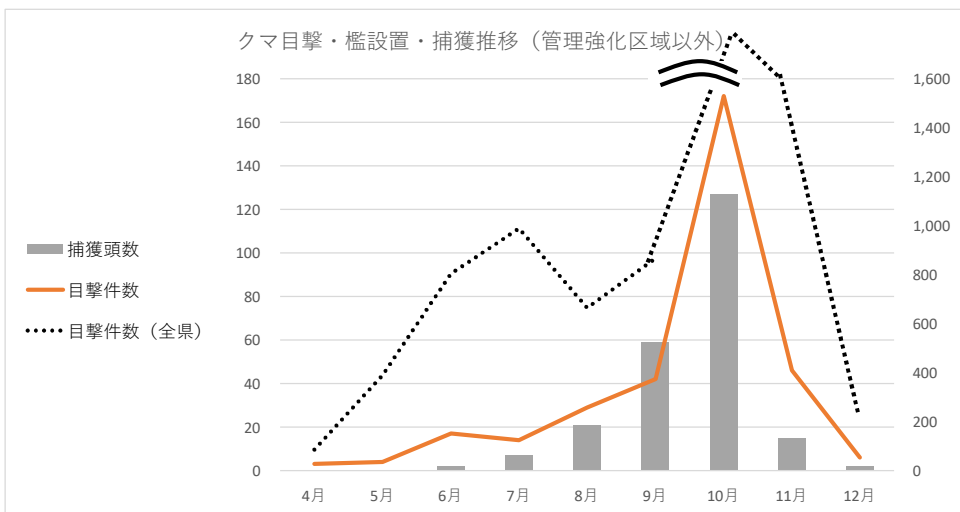
令和7年度



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
目撃件数（全県）	85	389	804	989	664	867	5,583	3,146	278	12,805
目撃件数	9	37	72	90	64	62	330	101	12	777
捕獲頭数	0	0	10	17	40	81	173	20	2	343



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
目撃件数	6	33	55	76	35	20	158	55	6	444
捕獲頭数	0	0	8	10	19	22	46	5	0	110



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
目撃件数	3	4	17	14	29	42	172	46	6	333
捕獲頭数	0	0	2	7	21	59	127	15	2	233

令和7年度 ツキノワグマ目撃、捕獲状況

凡例

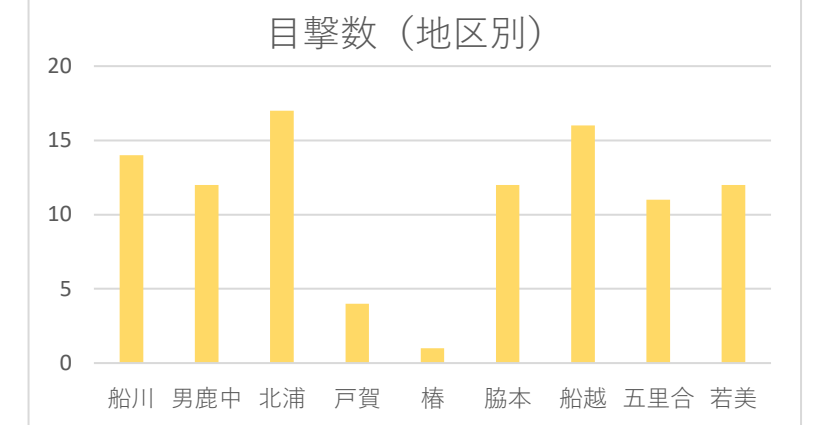
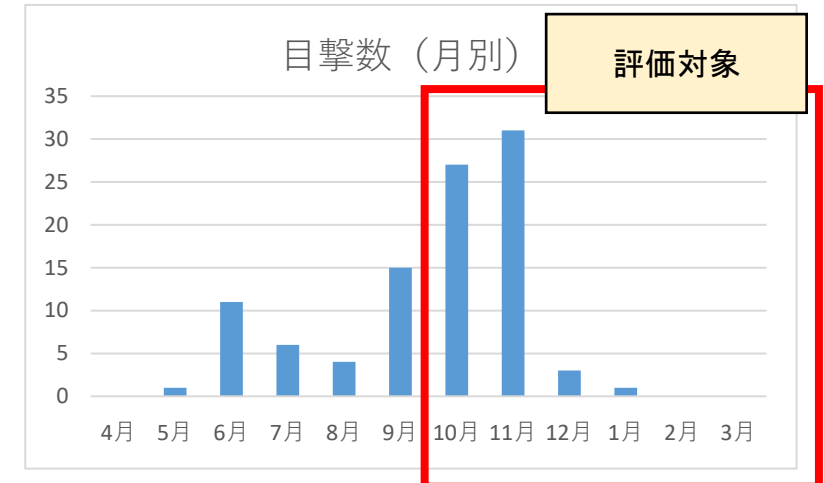
- 4月～6月目撃
- 7月～9月目撃
- 10月～12月目撃
- 1月～3月目撃

捕獲1例目

捕獲3例目

捕獲2例目

● 目撃状況 99件



● 捕獲状況 3件

1例目

捕獲日 令和7年6月14日
 場所 北浦北浦（北浦瑞光寺敷地内）
 捕獲方法 箱わな

評価対象

2例目

捕獲日 令和7年10月30日
 場所 鵜木下潟端（消防若美分署付近西部承水路）
 捕獲方法 銃猟

3例目

捕獲日 令和7年11月24日
 場所 男鹿中中間口（畑）
 捕獲方法 箱わな